

Maxwell[®] RSC Viral Total Nucleic Acid Purification Kit (カタログ番号 AS1330) 簡易マニュアル

ご用意いただくもの

- ボルテックスミキサー
- ピペットマン (P-200、P-1000)とそれらのチップ
- 56℃にセットしたヒーティングブロック
- 1.5ml遠心チューブ

Lysis Solutionの準備

Lysis Solutionは作りおきせずに、用事調製してください。

1. 下表にしたがって、Lysis Solutionを準備する。
多検体を同時に処理する場合には、余剰分を含めて調製してください。

	Lysis Buffer	Proteinase K
サンプル 100μl または 200μlの場合	200μl	20μ
サンプル 300μの場合	300μ	30μ

サンプルの準備

1. サンプルが凍結している場合、室温または氷上で溶解し、ボルテックスで十分に混ぜる。
2. 血漿または血清のサンプルを1.5ml遠心チューブに移す。
3. サンプル液量が100または200μlの場合、220μl Lysis Solutionを加える。
サンプル液量が300μlの場合、330μl Lysis Solutionを加える。
4. 10秒間のボルテックスにより、十分に攪拌する
5. 血漿サンプルの場合、手順6に進む。
血清サンプルの場合、室温(15~30℃)で10分間のインキュベーションを行い、手順6に進む。
6. 56℃で10分間のインキュベーションを行う。この間に、次の『カートリッジの準備』を行う。

カートリッジの準備

1. 検体数分のカートリッジをMaxwell[®] RSC/CSC Deck Trayに立て、順にアルミシールを剥がす。
カートリッジの両端がカチッというまで、しっかりとセットする
注意：サンプル数が16より少ない場合には、Maxwell[®] RSC/CSC Deck Trayの中央部分をお使いください。
2. 同数のElution Tubeをセットし、50 μ lのNuclease-Free Waterを加える。
Elution Tubeはグッと強く押し込んでください。
Nuclease-Free Waterは30~100 μ lを加えることができます。ただし、30 μ の場合、磁性ビーズの持ち込みの割合が高くなることが予想されるため、**標準として50 μ l Nuclease-Free Waterでの溶出をお勧めします。**
Elution Tubeのフタは絶対に閉めないでください。
3. カートリッジのウエル8に、プランジャーを置く。
4. 56 $^{\circ}$ Cのインキュベーションが完了したサンプル全量を、カートリッジのウエル1に添加する。
ウエル1は最も大きなウエルです。カートリッジラベルに一番近く、Elution tubeからは最も遠い位置にあります。
5. Maxwell[®] RSC/CSC Deck Trayを、Maxwell[®] RSC Instrument本体にセットし、精製操作をスタートする。

